

土づくりから健康な野菜を育てる

(栗山町 金丸 公雄 氏)

1 経営の概要

- (1) 有機栽培経験年数（開始年） 7年（平成15年）
- (2) 経営規模 230a
（うち有機栽培60a、170aは休耕）
- (3) 労働力 2人
- (4) 品目別作付面積及び生産量（平成21年）



品目名	作付面積	生産量
ミニトマト	60a	5,500 kg/10a
水菜	40a（ミニトマト作付前や後に作付）	
ほうれんそう	20a（ミニトマト作付前や後に作付）	

2 有機農業取組の経緯等

(1) 有機農業の取組動機

- ・約25年前より化学肥料との違いを見るために、ぼかし肥料を作り始めたことがきっかけ。

(2) 取組経過

- ・かぼちゃの栽培から始まり、平成9年に大玉トマトを、平成11年からミニトマトを導入した。
- ・平成15年に有機JASの認証を取得。
有機栽培には、15年前から取り組んでいたが、第三者認証がなければ消費者に認められないこと、また、有利販売につながることから取得した。



(3) 有機農業取り組みの考え方

- ・消費者に対して質（栄養や食味）の高い、誇れるものを食べていただくこと。
- ・手間暇を惜しまないこと。
- ・消費者に慣行農法との違いをいかに理解していただくかが一番の課題であると感じている。



3 有機栽培管理技術等の特徴

[有機栽培管理技術等の特徴]

(1)ミニトマト・キャロル 10

作 型	は 種	鉢上げ	ポット	定 植	収 穫
半促成長期どり	2/10	本葉3枚	12・10.5 cm	4/10	6/20～
ハウス雨よけ夏秋どり	3/10	本葉3枚	12 cm	5/10	7/10～

- ・栽培方法については、株間や施肥量、追肥のタイミングなど、毎年考えながら安定生産に向け取り組んでいる。

(2)種子

- ・サカタのタネから未消毒種子を購入。

(3)育苗方法

- ・ほ場の土と、もみがら堆肥を5対5の割合で混合して床土を作り、育苗箱に入れ播種。



(4)栽培方法

- ・ハウス3ベッド2条、株間30～40 cm、2本仕立て、斜め誘引。



[栽培管理技術等のポイント、工夫]

(1)土づくり

○堆肥

- ・トマト定植時に1ハウス約3 tを全面に約5cmの厚さで敷きつめ、収穫終了後にすき込む。



堆肥の様子（1月）



堆肥をハウスへ搬入

○ぼかし肥料：自家生産

- ・12月上旬に作物残さ、なたねかす、蒸製骨粉、魚かす、発酵菌を混ぜて水分20%に調整し堆積する。

(2) 肥培管理

- ・基本は、ぼかし肥料を基肥で 300kg/10a、追肥で 100kg/10a 施用する。
- ・追肥は草勢を見ながら増減し、実施している。

(3) 病害虫防除

- ・現在問題となっている病害は葉かび病である。
- ・株間（試行錯誤を繰り返している）、地温を一定にする、保水性・通気性の向上など耕種的防除が主体である。
- ・生物農薬の使用。

(4) 雑草対策

- ・もみから堆肥をトマト定植後に約5センチの厚みで敷き詰めマルチの代わりとしている。
- ・手取り除草。

(5) その他

（栽培で工夫していることや気をつけていること）

- ・中身の分かっている材料を使うこと。
- ・ハウスごとに作業内容が分かるように収穫管理表を置き、作業時にその都度記録している。



4 生産物の出荷・販売

(1) 販路確保の取組

- ・株式会社アレフ、生鮮市場、ラッキーの有機栽培コーナー、生活クラブ生協連合会に販売している。
- ・取引の開始は、バイヤーから土づくりをしている生産者と取引をしたいという希望を受け始まった。

(2) 販売先との取り決め等

- ・株式会社アレフとは契約栽培。取り扱う規格は M、L のみ。出荷期間は6月中旬から10月終わりまで。
- ・株式会社アレフの店長研修の受け入れを行い、生産現場での苦労や慣行農法との違いを啓蒙している。



5 消費者との交流の取組

- ・生協や生活クラブで講演し、有機農業の難しさについて理解を広めている。



6 生産者のつながり、関係機関・団体等との関わり

- ・視察の受入れには随時対応している。

7 今後の課題と方向

(1) 今後の課題と取組の方向

- ・有機農業に対する理解度を高めること。環境を守る意味でも有機農業は必要であると考えている。消費者へのアピールはもちろん、スーパーのバイヤー等にも理解してもらう必要がある。
- ・行政には、土づくりに取り組んでいる農家への支援を強く要望したい。



(2) 新たに有機農業に取り組もうとする人へのアドバイス等

- ・有機農業は根性！ 自分との闘い。生産や選果に対して妥協しないこと。
- ・基本は土づくり。堆肥から自分で作り、土を良くしていくこと。



〈作成：空知農業改良普及センター〉